

副皮除去術とは

小陰唇縮小術・陰核包皮切除術・副皮除去術とは、外陰部の余分な皮膚や組織を切除し、縫合することで、ご希望や外陰部全体のバランスに合わせて形を整える手術です。本来の機能を維持しながら、形態や左右差、余分な皮膚の重なりなどを整えます。

小陰唇縮小術は、肥大や左右差のある小陰唇の余分な組織を切除し、形や大きさを整える手術です。

陰核包皮切除術は、陰核(クリトリス)を覆う余分な包皮を適切な範囲で切除し、形を整える手術です。

副皮除去術は、小陰唇と大陰唇の間や陰核包皮周辺にみられる余分な皮膚のひだ(副皮)を切除し、外陰部全体の形やバランスを整える手術です。

余分な皮膚や組織の重なりを改善することで、汚れや分泌物がたまりにくくなり、外陰部を清潔に保ちやすくなることが期待されます。

手術にあたっての注意点・術後のケアについて

◎手術当日は、陰部周辺の毛をすべて剃毛してご来院ください。

◎手術後は出血がみられるため、生理用ショーツおよび夜用ナプキンをご持参ください。

・術後2～3日は比較的多めの出血がみられる場合がありますので、夜用などのナプキンを装着してください。その後も約1週間程度は少量の出血が続く場合があります。痛みは時間の経過とともに徐々に軽減していきます。特に出血や腫れが出やすい術後2～3日は、できるだけ安静にお過ごしください。

・術後は切開部分に傷があり、細い糸で縫合されている状態です。傷口やその周辺が下着などで擦れることで負担がかかり、痛みや違和感を伴う場合があります。

・手術日から2週間後を目安にご来院いただき、医師による経過観察を行います。

・術後は感染のリスクを軽減するため、創部を清潔に保ってください。術後当日より、水圧を弱めにしたぬるめのシャワーで創部を優しく流してください。毎日行うようにしてください。熱いお湯は血流を促進し、腫れや出血の原因となる場合があるため、ぬるめの温度をおすすめします。

・石鹸やボディソープを使用して創部を洗浄すると、傷にしみる場合があります。創部の状態が安定するまでは、術後1週間程度を目安に直接の使用を避けてください。

・術後2週間の診察で問題がなければ、入浴が可能です。それまでは、浴槽内の雑菌が創部に付着することによる感染のリスクや、血流が良くなることで腫れや出血が長引く可能性があるため、入浴はお控えください。

・術後1ヶ月程度は創部に負担をかけないよう、身体を洗う際に強く擦ったり、強い水圧を直接当てたりせず、優しく扱ってください。

・飲酒は血流を促進し、腫れや出血が長引く原因となる場合がありますので、術後1週間程度はお控えください。

・運動は血流を促進し、腫れや出血が長引く原因となる場合があります。軽い運動は術後1週間程度、激しい運動は術後1ヶ月程度お控えください。

・術後の性交渉は、術後1ヶ月以上経過してから、創部の状態を確認し、十分に注意した上で行ってください。痛みや違和感がある間はお控えください。

※経過観察を目的として、施術部位の写真を撮影させていただきます。撮影した写真は厳重に管理し、患者様の診療および経過観察以外の目的で、患者様の同意なく使用することはありません。

※術後の腫れ、硬さ、つっぱり感、違和感などは、時間の経過とともに改善していく場合があります。症状が強い場合や、出血が止まらない、強い痛みや腫れ、発熱、膿が出るなどの症状がある場合は、速やかにクリニックまでご連絡ください。

※授乳中の方は、術後48時間は授乳をお控えください。

手術により生じる可能性のあるリスクについて

【左右差】

手術直後から左右差を感じる場合があります。特にダウンタイム中は、腫れ方の違いにより左右差を強く感じる場合があります。人体は元々完全な左右対称ではなく、手術前の形態、皮膚や組織の厚み、たるみの程度、傷の治り方などにより、完全な左右対称にならない場合があります。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みを感じる場合があります。術中は麻酔の効果により痛みが軽減されますが、術後に麻酔の効果切れると痛みが生じる場合があります。痛みがある場合は、処方された内服薬を指示どおりに服用してください。

【腫れ】

手術当日より腫れが生じます。腫れの程度には個人差がありますが、通常は時間の経過とともに徐々に軽減していきます。

【出血】

術後は創部から出血する場合があります。通常は時間の経過とともに軽減しますが、出血量が多い場合や、圧迫しても出血が止まらない場合には、速やかにクリニックまでご連絡ください。

【感染】

術後に感染が生じた場合、傷の治りが遅くなったり、痛みや腫れ、赤みが強くなる場合があります。状態により、抗生剤の投与や外科的処置が必要となる場合があります。

【血腫】

手術部位に血液がたまり、血の塊（血腫）が生じることがあります。小さな血腫は自然に吸収されることがありますが、状態によっては処置が必要となる場合があります。

【傷跡】

皮膚や組織を切開・切除する手術のため、傷跡が残ります。傷跡の目立ち方には個人差があり、体質や傷の治り方によっては赤み、硬さ、盛り上がりなどが生じる場合があります。

【傷の離開・治癒遅延】

創部への強い負担、摩擦、感染などにより、縫合部分が開いたり、傷の治りに時間がかかる場合があります。状態によっては追加の処置が必要となる場合があります。

【知覚の変化・違和感】

術後、一時的に手術部位やその周辺に、しびれ、感覚の鈍さ、過敏な感覚、つっぱり感などが生じる場合があります。多くは時間の経過とともに改善しますが、症状が長期間残る可能性があります。

【形態に関するリスク】

手術後の仕上がりには個人差があり、希望した形態と完全に一致しない場合があります。また、傷の治り方や組織の状態により、凹凸、ひきつれ、左右差などが生じる可能性があります。

手術をお受けいただけない方

妊娠中の方、妊娠している可能性がある方、必要な同意が得られていない未成年の方、手術部位に傷や炎症、感染症状がある方、使用する麻酔薬や薬剤にアレルギーのある方、その他、診察の結果、医師が手術を行うことが適切でないと判断した場合は、手術をお受けいただけません。

医療法人社団桜恵会 THE ONE.